



東京芸術祭ファーム
Asian Performing Arts Camp (オンライン) 参加者募集
[応募締切：2021年6月20日(日)23:59 JST]



▲ オンラインで実施した 東京芸術祭 APAF2020 Lab の様子

ボーダーを越えて、身体を超えて、アジアの舞台芸術の未来へ

東京芸術祭ファームのプログラムのひとつ「Asian Performing Arts Camp」*は、アジア各地で活動する舞台芸術の人材がそれぞれのフィールドでの問題意識やリサーチテーマを持ち寄り、文化や国籍を超えたディスカッション、共同リサーチなどを通じて新たな価値観を育み、今後の自身の活動やフィールドを耕していくためのアートキャンプです。2021年度は新型コロナウイルス感染症によるアジア各国の状況も踏まえ、オンラインで実施します。アジアを拠点に活動する演出家、振付家、劇作家、ドラマトウルク、プロデューサー等、舞台芸術の企画において重要な役割を果たす作り手を対象に参加者を公募します。(実施言語：英語/参加無料)

*「東京芸術祭 APAF Lab」は2021年度より「東京芸術祭ファーム Asian Performing Arts Camp」に名称を変更しました。

▶オンライン説明会実施

6月9日(水) 20:00～(日本標準時)

- ・東京芸術祭YouTubeチャンネルにてライブ配信(実施言語：英語)
- ・詳細は東京芸術祭Webサイト (<https://tokyo-festival.jp/2020/program/farm2021/>)にてご確認ください

| 東京芸術祭 Webサイト <https://tokyo-festival.jp>

主催：東京芸術祭実行委員会〔豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、
公益財団法人東京都歴史文化財団(東京芸術劇場・アーツカウンシル東京)〕

助成：令和3年度 文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業 

Asian Performing Arts Camp 実施概要

「東京芸術祭ファーム Asian Performing Arts Camp」は、約2ヶ月にわたり定期的にオンラインセッションを重ね、参加者それぞれの活動テーマや関心領域を出発点に、レクチャーやディスカッション、協働して行うリサーチを通して共に思考を深めるプログラムです。活動の最後には、参加者全員が期間中に取り組んだリサーチを一般公開のプレゼンテーション（オンライン）にて発表します。期間中はファシリテーター2名（JK アニコチェ（昨年度に引き続き担当）、山口恵子（APAF2020 Lab 参加者））が参加者に伴走し、国や文化を超えた協働の可能性を共に探求していきます。

■ 実施内容・方法

基本的に全てのプログラムをオンラインで実施（使用予定のツール：Zoom、Slack、miro、One Drive等）

- リサーチ : 個人の活動テーマや関心領域を出発点としたリサーチやフィールドワークを実施します。参加者は自身のテーマ以外に、別の参加者との協働リサーチの可能性も探求します。
- ディスカッション : レクチャーやワークショップ、参加者による“パフォーマティブ - シェアリング (Performative - Sharing)” などをもとに議論します。
- レクチャー、ワークショップ : ファームディレクターやゲストによるレクチャー、ワークショップを実施します。
- プレゼンテーション : 参加者それぞれによるリサーチの結果を発表する場です。中間プレゼンテーションを経て、最終公開プレゼンテーションへと進みます。
※最終公開プレゼンテーション：オンライン配信で実施します。また、ゲストを迎えてのフィードバックセッションも行われます。オンライン配信された映像は、東京芸術祭 YouTubeチャンネルにて、アーカイブとして公開される予定です。

- 上記以外にも、リサーチに伴うフィールドワーク等に積極的に取り組むことを推奨します。その際は、各地域の社会規範に従い、安全に実施してください。
- 活動日以外も、常時Slack等で情報交換を行います。
- 基本的に参加者同士のコミュニケーションは全て英語で行います。一般公開で実施する最終プレゼンテーション等は日英通訳が入る予定です。また、スタッフとのやり取りは日英通訳を介する場合があります。

■ 実施日程

期間：2021年8月25日(水)～11月1日(月)

※上記期間の内20日程度、活動を実施

※活動時間は各日3～4時間程度（プレゼンテーション実施日やコア期間等、左記に該当しない場合もあります）

前半活動	8月25日(水)、8月31日(火)、9月7日(火)、9月15日(水)、9月22日(水) ※活動初日 8月25日(水)はガイダンス等を実施。
中間プレゼンテーション	リハーサル：9月28日(火) 本番：9月29日(水)
後半活動	10月6日(水)、 <u>10月12日(火)</u> 、 <u>10月13日(水)</u> 、 <u>10月14日(木)</u> 、 10月18日(月)、10月21日(木)、10月25日(月) ※ <u>10月12日(火)</u> 、 <u>10月13日(水)</u> 、 <u>10月14日(木)</u> はコア期間として、各日3時間以上の実施を予定。 ※上記日程の他、東京芸術祭のオンラインプログラムの観劇を実施予定。
最終公開プレゼンテーション / フィードバックセッション	10月26日(火)～31日(日) ※上記の期間内で、4～5日程度活動を実施（リハーサル、最終公開プレゼンテーション、フィードバックセッション）。詳細な日程は、活動の初日にお知らせします。
ラップアップ / 修了式	11月1日(月)

※実施時間は参加者の時差をふまえて調整し、7月末までに参加者へ連絡します（参考：昨年は14:00～17:00（日本標準時）で実施）。

※各自のリサーチ作業は上記に含まれません。

※東京芸術祭ファームの他プログラム参加者との交流会等、上記以外で参加が必要なスケジュールについて、案内をお送りする場合があります。

※上記は2021年6月1日時点の情報です。内容は変更となる可能性があります。

東京芸術祭ファームは、さまざまな人が創造的な力を安心して発揮できるよう、「東京芸術祭ファーム ガイドライン」 (<https://tokyo-festival.jp/2020/program/farm2021/>) に則って運営されます。全ての参加者はこのガイドラインのもと、活動に参加していただきます。

ファシリテーターからのメッセージ

On Life Performance Ecology - JK アニコチェ

世界的なパンデミックの発生から一年が経ち、人類は今、未来のために何を手放し、何を携えて先へ進むべきなのか、取捨選択を迫られています。これまでの「境界」の捉え方や、それを前提とした交流の形を問い直すことが性急に求められるなかで、アーティストは皆、それぞれの身近なコミュニティと向き合いながら、いったい人生にとって、あるいは社会や環境、広い意味での「生態系」、ひいてはパフォーマンスの創作にとって、無くてはならない物とは何だろう？どのような考え方や方法論、あるいはシステムが必要なのだろう？と、自らに問い続けています。

日々の営みを、そしてその営みの場たる生態系を成り立たせるために、私たちはどのようなプロセス、手法、生産様式を採用すべきなのか。こうした問いと向き合うにあたり、今年のAsian Performing Arts Campが、荒涼としてしまった大地を耕し、新たな生命を育むための知恵や種を交換する場になることを、私たちは願っています。パンデミックによって浮き彫りになった不平等や格差を踏まえ、それぞれ異なる場所から、オンライン上に（デジタルのクラウド上に）あらゆる「場」を越えた＝トランスフィールドな国際的な交流のために集う私たちにとって、私たちの誰しものが共有する人間性だけが、既存の境界線を消し去り、新たな連帯や人間同士の繋がりを作る手がかりとなるでしょう。我々は集う。そして共に、未来に向かってこの手ごわい土を耕し、共に創り、共に生き、共に演じ／行為するのです。



JK アニコチェ JK Anicoche
フィリピン

マニラを拠点に芸術、文化、社会発展を交差させる活動を行うパフォーマンス作家。活動はブラックボックスでのパフォーマンス創作の開発から様々なコミュニティとの関わりを通じた作品の考案制作まで多岐にわたる。現代文化研究団体であるSipat Lawin Inc.の芸術監督であり、分野にとられないパフォーマンス集団、Komunidad Xのメンバー。またカルナバル・フェスティバル：パフォーマンスとソーシャル・イノベーションのディレクターを務め、the Virgin Labfest Virtual Edition 2020やkXchange.org.などにも関わる。近年では、ニューヨーク、台湾、上海でも活動し、日本ではフェスティバル/トーキョー19で、体験型パフォーマンス『Sand (a)isles』を発表。共同ファシリテーターとしてAPAF2020 Labに参加。

先のフィールドへ - 山口恵子

移動できない、集まれない、そんな制限が世界中にかかったこの一年。しかし、そういった制限があるからこそ、新たに開いた入り口みたいなものが沢山あったと思います。私にとって去年のAPAF Labがその一つでした。自分の部屋というとてもプライベートな場所を基点にするこの集まりは、従来の国際協働の環境とは違い、参加者の日常の中で起こります。そこにはこれまでは触れることがなかった、各都市の生活がありました。今年思い描くのは、去年見つけたその入口をもう少し開き、部屋を通り抜け、その先にある土地や社会に関わるようなプログラム。オンラインを通してアーティストが各都市と交わることで、舞台芸術と生活を巡る新たな生態系が生まれることを期待しています。それぞれがアイデアや課題、実験を持ち寄り、異なる土壌に触れ、知り、水をやりに、時には失敗しながらも、それぞれの土地を育てていくことを楽しみにしています。



山口恵子 Keiko Yamaguchi
日本

京都在住、俳優。2011年に演劇グループBRDGを立ち上げ、インタビューやフィールドワークを元に、多文化・通訳に焦点を当てた作品を創作。2020年に日本・フィリピンの青少年と、フィリピンの劇団PETAと協同で『ふれる〜ハブロス』を発表、オンライン作品『HELLO』を配信した。俳優として、松本雄吉、マレビトの会、したため、りっかりっか*フェスタ（沖縄）の作品に出演する。2017年アジアセンターフェロー。APAF2020 Labに参加。2021年より青年団演出部所属。京都・東九条のコミュニティカフェほっこりで店員として働きながらラジオを放送したり、NPO法人スウィングでなんちゃって舞妓をしている。

Photo: Koichiro Kojima

Asian Performing Arts Camp イメージ

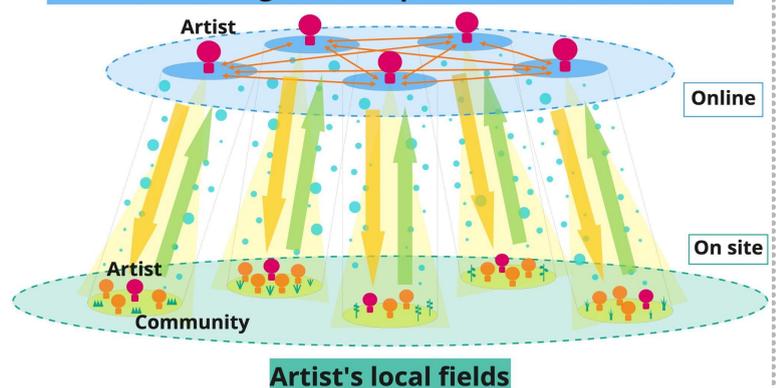
以下は、ファシリテーターの二人が考える国を超えた協働の可能性のイメージです。今年のAsian Performing Arts Campへの参加を志望するみなさんは、応募時に以下の「Question」に回答してください。

Online performance ecology

This image is our image of this year's transfield cloud community / ecology / farm cultivating / nourishing life performances. Take a moment to feel and see.

Question: Based on your interests and practice, what performance research and/or processes do you wish / need / want to explore and co-create with your immediate locality and with Asian Performing Arts Camp community? How do you want to cultivate these ideas?

Asian Performing Arts Camp as a "Trans-field" cloud



募集概要

■ 応募資格

次の1～7のすべてにあてはまる方

1. アジアを拠点に活動している
2. 舞台芸術作品やプロジェクトにおいて創作上重要な役割を果たしている
3. 原則として35歳以下
4. 全ての実施日程（p.2参照）に参加可能
5. 東京芸術祭が行う、自身の参加プログラムの広報およびPRに協力することができる
6. オンラインでの活動に必要な環境を整えられる
 - セキュリティに問題がないインターネット接続環境
 - グループビデオ通話、動画閲覧、大容量ファイルのダウンロード等に十分に対応できるインターネット接続環境
 - Zoomのグループビデオ通話*、Slack、miro、One Drive が利用できる端末（使用ツールは参加者の状況やプログラム内容に応じて追加、変更となる可能性あり）
*Zoomの使用に必要なシステム要件：<https://support.zoom.us/hc/ja/articles/201362023>
 - スマートフォンのみでの参加は非推奨
7. 以下の姿勢および関心を持っている
 - 英語でのコミュニケーションに積極的に参加する姿勢
 - バックグラウンドや価値観が異なる相手との対話を通じて新たな発見を得たいというモチベーション
 - 国際協働におけるコミュニケーションについて考え、実践することへの関心
 - 今後も国際的な舞台芸術の分野で活動を続ける意思

■ 参加費

無料

■ サポート

- 上限10万円の支給（送金手数料・税金等が引かれます）：インターネット環境の整備費、リサーチ費（資料購入等）、小道具等の作成費として支給
- コミュニケーションデザインチームによるサポート：多文化間のコミュニケーションや英語でのディスカッション方法についてのレクチャー、参加者間でのコミュニケーションのルールづくり、活動内のコミュニケーションに関する相談・対応 等
※本プログラムでは専門的、抽象的な内容を伴うディスカッションが英語で行われる予定ですが、参加者が英語レベルに関係なく対等に対話に参加できる場を作るため、コミュニケーションのサポートをしています。

■ 募集人数

8名程度

■ 選考スケジュール

ファシリテーター JK アニコチェ・山口恵子、東京芸術祭ファームディレクター 多田淳之介による選考を行います。

応募受付	応募締切：2021年6月20日（日） 23:59（日本標準時） ・オンラインのフォームにて受付
一次選考：書類審査	結果発表：2021年7月4日（日）までにメールにて合否を通知 ・応募時の内容をもとに選考を実施
二次選考：面接	選考実施日：2021年7月5日（月）～7月7日（水） ・オンラインにて実施（使用ツール：Zoomを予定）
参加者決定	結果発表：2021年7月15日（木）頃にメールにて合否を通知

※合否に関わらず、選考の結果は応募者全員にメールで通知します。必ずメールでの連絡が受け取れるようパソコンや携帯電話の設定をご確認ください。

■ 応募方法

以下、応募フォームより必要事項を入力の上、送信してください。

| 応募フォーム <https://form.run/@apac2021> ※回答は全て英語で記述してください。

<必要事項>

1. 氏名もしくはアーティスト名
— 自分に対して使ってほしい代名詞 (he, she, they 等)
2. 国籍
3. 活動拠点 (都市名 / 複数ある方は全て)
4. 生年月日
5. メールアドレス
6. 連絡先住所 (日本在住者のみ / 日本語で記入)
7. 日中連絡のつく電話番号
8. 職業 (所属など)
9. アーティストプロフィール (150ワード以内)
10. ウェブサイト (あれば)
11. これまで関わった作品の動画リンク (YouTube等 / あれば)
— その作品における自身の役割
※必要に応じて閲覧制限を設定してください。
12. 応募動機 (150ワード以内)
13. p. 3のファシリテーターからのメッセージと「Asian Performing Arts Camp イメージ」をふまえて、以下のQuestionへ回答してください。(300ワード以内)

Question:

Based on your interests and practice, what performance research and/or processes do you wish / need / want to explore and co-create with your immediate locality and with Asian Performing Arts Camp community? How do you want to cultivate these ideas?

14. 自身の英語でのコミュニケーション力 (選択式)
 - a. 簡単な自己紹介や相手との会話ができる
 - b. ある程度準備しておけば、自分の活動の内容を説明することができる
 - c. 自身の専門分野において、抽象的な概念も使いながら考えや意見を述べるすることができる
 - d. cをもとに、議論を発展させていくことができる— 上記の回答についての補足 (自由記述 / あれば)
15. オンラインミーティング等に使用する機材 (選択式)
※オンラインでの活動に必要な環境は「応募資格」(p. 4)を確認してください。
16. 参加に際して使用するネットワーク環境
17. 二次選考期間 7月5日(月)12:00~21:00、7月6日(火)12:00~21:00、7月7日(水)10:00~12:00 (いずれも日本標準時)の内、面接に参加できない日時 (あれば)
※日本標準時で回答してください。
18. 他の東京芸術祭ファームのプログラムで応募を予定しているもの (選択式 / あれば)
※同時募集している他プログラムへの併願は可能です。
19. 「Young Farmers Forum」参加者募集への応募を希望するか (日本国内在住の29歳以下のみ対象)
※「希望する」と回答した場合は「Young Farmers Forum」参加者募集への応募手続きが不要となります (詳細: 「Young Farmers Forum」募集要項 <https://tokyo-festival.jp/2020/program/farm2021/>)。
20. 応募にあたっての連絡事項など (あれば)

■ 留意事項

お預かりした個人情報は厳重に保管し、本プログラムに関する諸連絡以外に使用することはありません。

[お問合わせ] APAC制作オフィス MAIL: apaf@tokyo-festival.jp TEL: 03-4213-4293 (平日10時~19時)

※記載の情報は2021(令和3)年6月1日現在のものです。内容等は変更になる場合がございます。

APAF から東京芸術祭ファームへ

このたび、東京芸術祭の人材育成プログラムとしてアジア次世代の作り手たちの協働と実験の場として人材や作品、国籍や文化を超えたネットワークを生み出してきた“APAF (Asian Performing Arts Farm)”は、これまで東京芸術祭及びフェスティバル/トーキョーが取り組んできた研究開発・教育普及プログラムを組み込んで、より裾野を広げ高みを目指す“東京芸術祭ファーム (Tokyo Festival Farm)”へとバージョンアップします。

ディレクター体制も APAF から引き続きディレクターとして多田淳之介、新たに共同ディレクターとして長島確を加えた2名体制へ、さらに APAF2020 から導入したコミュニケーションデザイン制度を基にガイドラインを策定し、異なる他者へのリスペクトを前提としたコミュニケーションの徹底、個々がクリエイティビティを発揮できる環境作りとハラスメント防止にも積極的に取り組んでまいります。

これまでも舞台芸術は異なる他者と協働し、様々なボーダーを超えてきました。グローバル化が進み、通信手段や移動手段の発達によって異なる他者がより身近になった現在は、国籍や民族、言語などの枠組みが融解しはじめ多様な個がフィールドを行き交う“トランスカルチャー／トランスフィールド”環境が進んでいます。「国際的」という言葉の意味も「普段は混ざってない異文化が混ざること」「国外でも流通すること」から、「日常的に異なるものが混ざり合い複雑化したこの世界の価値観を提示すること」へと変わっていくでしょう。そして舞台芸術の役割もこの世界を映す鏡として変化していくのを感じています。

東京芸術祭ファームの「国際的」な次世代育成の場としてのミッションは、ボーダーの融解するトランスフィールド／トランスカルチャー環境を体感し、様々な価値観と出会いながらこの複雑化した世界を捉える力を育み、国や文化を超えて様々なフィールドをトランスし活躍する人材の輩出、そのための持続可能な環境作りです。

それが世界中で多様化と同時に生まれている「分断」に対抗していくものになると信じています。

2021年、未来に向けバージョンアップした舞台芸術のファームを、どうぞよろしく願いいたします。

東京芸術祭ファーム 2021 テーマ「都市の価値／Why Cities?」

昨年の APAF2020 は“Anti-body Experiment”というテーマのもと、オンラインの可能性とリアルな身体を捉え直し「集まらないこと」への抗体を作る実験でした。今年の東京芸術祭ファーム 2021 では COVID-19 の感染（拡大／収束）状況の違いが残る世界を背景に“都市の価値／Why Cities?”というテーマを掲げます。これは国や地域ごとに固有のキャラクターを持ちながらも、経済や効率、消費と生産、そして感染症拡大リスクという共通の 이슈を持つ「都市」をめぐる、これからの生き方についての問いかけです。何が違って、何が変わらないのか。私にとって。私たちにとって。あなたにとって。あなたたちにとって。様々なサイズや距離によっても揺らいでいく「価値」は誰のものなのか。プログラム参加者も観客も、ファームを訪れる異なる者たちで共に考えるためのトリガーです。

2021年6月

東京芸術祭ファームディレクター 多田淳之介



東京芸術祭ファームとは

東京芸術祭ファームは、舞台芸術の祭典・東京芸術祭の人材育成機能を集約した新しい枠組みです。アジアでの若いアーティストの交流と成長のプラットフォームである Asian Performing Arts Farm (APAF: エーパフ) にフェスティバル/トーキョー (F/T) の研究開発・教育普及プログラムが加わって誕生しました。出会いと学びの場「スクール」、現場研修の機会「インターンシップ」、研究開発に挑む「ラボ」の3つのカテゴリーがあります。参加者公募を中心とする多様なプログラムのなかで、他者と協働しながら地域や分野を超えた“トランスフィールド”を開拓し、今後ますます流動的になるさまざまなボーダーを自由に行き来して活躍する人材の育成を目指します。

ラインアップ詳細はこちら <https://tokyo-festival.jp/2020/program/farm2021/>